

にも通信

Vol. 14

令和6年度 第14号
令和6年9月吉日

にも
包括

精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、包括的なシステムを構築していく取り組み

発行：相模原市精神保健福祉課

2024年5月、中央区星が丘にたい焼き屋がオープンしました。店名はpoco a poco♪。イタリア語で「少しずつ」という意味があり、一歩ずつ、ゆっくりと進んでゆくことを表しています。開所から4カ月が経ち、地域にも馴染んできたところ。なぜたい焼き屋？地域にとってのpoco a poco♪ってどんな存在？などなど、たっぷり時間をとっていただき取材しました。

星が丘の新名物 たい焼き屋 poco a poco♪



食べ歩きも仕事のうち

たい焼き屋poco a poco♪は、社会福祉法人かむが運営する就労継続支援B型の事業所。所長の碓井（うすい）さんに取材申込みをした際には「ぜひぜひ!!」と二つ返事で快諾いただけました。開所からこれまでの間、常に走り続けてきた碓井さんですが、趣味は「小江戸・川越での食べ歩き」とのこと。ただの食いしん坊というわけではありません。「川越は訪れるたびに発見があるんです。今何が流行っているのか、食べ歩きをしながらヒントをもらっています」と話し、お客様に喜んでもらえるにはどうしたよいかを常に考えているのです。



なぜたい焼き屋なのか

スタッフ間でも「何が売れるのか」を色々考えましたが、理事長の熱い思いがたい焼き屋を誕生させることになりました。

「たい焼きは日本人にとってのソウルフード。大人も子どもも気軽に買いに来て、地域の人たちが顔を合わせる。そういう場所があっても良いのでは。地域の人たちと触れ合う機会と利用者の社会参加ができることを期待しています」と。poco a poco♪は地域交流を大切に、それを形にしようとしていることが伺えました。狙いはすぐに形となり、近所の公民館や幼稚園などからも注文が相次ぎました。障害のことを知らない人にも主旨を説明すると「素晴らしいことをしているわね」と賛同も得られました。



会話も楽しみのひとつ

poco a poco♪には老若男女、あらゆる世代の客層でにぎわいます。午前中は年配の方、午後になると幼稚園、小学生と変わります。お店の前にはベンチもあり、自然と人が集まるようになりました。小学生の子どもたちの間では待ち合わせ場所にもなり、地域の人たちにとって、なくてはならないスポットになりつつあります。たい焼きを売るだけでなく、そこでの会話も楽しみのひとつ。これが地域に溶け込むコツでもあり、地域交流の醍醐味といえるのではないでしょうか。

「おいしい」の声がやりがい

開所当初からのメンバーである山崎さんは「開所前のチラシ配りが大変だったが、オープン当日は大雨にも関わらず、たくさんの方が来店してくれた」と当時を振り返ります。やりがいについて聞くと「自分が作った生地を食べてもらえて、おいしいと言ってもらえるのがやっぱり嬉しい」とはにかみます。作業内容はその工程ごとにあり、それぞれの特性を活かしながら選択することができることも強みです。山崎さんは「昔の接客の経験が生きている気がします。ライバル店ができるとうやる気にも繋がる。一緒に盛り上げていければ」と地域の活性化にも意欲を見せています。



星が丘の新名物！
たい焼き屋 poco a poco♪

9月18日(水)
新登場！
きゃべつソースたい焼き
(お好み焼風)

白あん	200円
カスタード	200円
ハムチーズ	200円
新登場！ きゃべつソースたい焼き	250円
ドリンク各種	150円

営業時間 11:00 ~ 16:00
休 日 日 曜 月 曜 第3火曜
第3火曜 休業日
MAP
042-707-7708
@pocoapoco.b

たい焼き屋 poco a poco♪
住所 中央区星が丘3-2-18
電話番号 042-707-7708
営業時間 11:00-16:00
定休日 日曜・月曜・第3火曜

【お得情報】 “にも通信を見た” で、たい焼きが1割引き!! ※10月末まで

取材後記
開所から常に走り続けてきたこともあり、この取材が振り返りの機会になったとのこと。横目で売上が気にしつつも、たい焼きやマフィンの販売をとおした地域交流や地域に貢献している様子が伺えました。早くも地域に馴染み、無くてはならないスポットとして愛されているエピソードがとても印象的でした。この秋新登場の「きゃべつソースたい焼き(お好み焼風)」は必食です!!ぜひお店まで足をお運びください!!

【報告】

令和6年度第1回相模原市精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進連絡会議（協議の場）

“地域で生活し続けるために大切なこと”

相模原市では、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業の取組みの一環として、年2回協議の場を開催しています。この協議の場には地域の支援関係者に加え、ピアサポーター（当事者）や家族も参加しています。

今年度の第1回協議の場は“地域で生活し続けるために大切なこと”をテーマに参加者でグループワークを行いました。前半は“大切と思われること”を挙げ、後半はそのことに対して、“できそうなこと”を出し交流を深めました。

各グループでの意見やアンケート結果を共有したいと思います。

医療、お金、繋がり、相談先、理解…

精神障害をもつ方が生活し続けるために、医療の視点は欠かせないという意見が多く聞かれました。病気や障害とどのように付き合っていくかという点については、自身による理解に加えて、周囲の理解も必要です。困ったときの相談先、どこにSOSを出せばよいのかを知っておくことも大切です。衛生面について着目するグループもあり、部屋の片づけや掃除、日常的な口腔ケアといった話題も出ていました。

医師である熊谷参事からは、「具合が悪い時など必要な時にタイミングよく受診できる精神科救急の体制作りも必要。支援者、家族の苦労も含め、地域生活のバックアップとして医療の視点を入れることが大事」との講評がありました。

FESTA みなみ風

今年も“FESTAみなみ風”が開催されます。福祉事業所、みなみ風利用者等による自主製品の販売、フリーマーケットに加え、阿波踊りやけん玉パフォーマンス、麻溝台高校吹奏楽部によるミニコンサートも♪

2024年10月27日（日）11：00～16：00
相模原市立南障害者地域活動支援センター
（南区南台4-12-54 市営南台団地4号棟1階）

※センターの駐車場はお祭りの会場となりますので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。



このグループでは、メゾ、ミクロ、マクロ、その他の領域に分類して検討していました。安心して生活し続けるためには「知ってもらう」ことが大切とし、勉強会の開催と併せて、高校の授業にピアサポーターを派遣するなどの意見もあったようです。また、将来的には各区の相談支援キーステーションを地域包括支援センターの数並に充実させてはどうかという意見もありました。

アンケート結果

- ・電話だけのやりとりから、顔が分かり、色々な繋がりが深まりました。考えていることはどの立ち位置でも概ね同じことがわかり、仲間を得た気持ちです。
- ・既存の資源に限らず意見が出ていたのが良かったと思います。そういった発想ができる人が増えていくことが地域生活の継続に必要なだと思います。
- ・人とのつながりが大事という所に共感しました。人とのつながりについては、当事者としてピアの活動を拡大させ、活動の幅がもっともっと増えると良いと思いました。

編集後記

たい焼き屋poco a poco♪を知ったのはオープンから1か月ほど経過した頃でした。仕事柄、アンテナを広げているつもりでも、まだまだ情報をキャッチできていないと感じました。これが一般市民に置き換えると更に関心が限定されてきますので、多数の人に伝えたい場合には工夫やコツが必要なのかもしれません。SNS隆盛の時代ではありますが、ただアップしただけでは情報の渦に飲み込まれてしまいます。各所の工夫などについて伺ってみても面白いですね。

「にも通信をみた」と言っていたいただければ、おいしいたい焼きが1割引になるこの機会にぜひお店を訪れてみてください。「にも通信見たって人、だれも来ませんでしたよ～」と言われたら恰好悪いので、ぜひご協力、ロコミのほどよろしくお願いたします!!



にも包括は支援機関の皆さまや地域の人たちとともに創り上げていくものです。事務局では、地域で取り組んでいる活動や耳より情報、好事例などを広く募集しています。電話でもメールでも構いません。ご意見・ご感想も含めてお待ちしております!!

